

平成22年度事業報告書

〔 平成22年4月 1日から
平成23年3月31日まで 〕

目 次

I. 概 要	1
II. 理 事 会	2
III. 評 議 員 会	3
IV. 主要事業活動	4
1. 日韓ビジネス交流促進事業	5
(1) 日韓中小企業ビジネス促進事業	
(2) 日韓中小企業商談会	
(3) 部品素材工団投資訪韓ミッション	
(4) 日韓中小企業産業技術フォーラム企業交流事業	
2. 環境・省エネルギー関連事業	9
(1) 環境・省エネルギー関連セミナー	
(2) 環境・省エネルギー経営者交流事業	
3. 地域間交流事業	12
(1) 九州・韓国産業交流事業	
(2) 北陸・韓国産業交流事業	
(3) 石川・韓国産業交流事業	
(4) 九州・韓国南部クラスター交流事業	
4. 産業・技術交流事業	14
(1) 先進企業技術交流事業	
(a) 日本語教育	
(b) 企業実習	
(2) 理工系大学院生研究交流事業	
5. 調査・広報事業	17
(1) 日韓経済連携関連事業	
(2) 各種調査・研究事業	
(3) 日韓グリーン産業調査事業	
(4) 財団ホームページ整備	
V. 日韓両財団「連絡協議会」及び「連絡協議会幹事会」の開催	21
VI. 事務局人事	24
VII. 財団主要活動	25

I. 概 要

当財団設立後、事業を開始して以来18年が経過した。これまで日本政府、及び関係経済団体のご協力と日本側企業の多大なご支援により、韓国の中堅・中小企業の経営をはじめ多くの分野に於いて事業の成果が上がっている。この18年間で当財団の事業に参加した韓国人数、韓国企業数は、研究支援事業、セミナー等で約4,900名、産業人の交流事業で約1,500名、また生産性向上協力事業等を実施した企業は約390社、また商談会等に参加した日本、韓国両国の企業数は1,250社を超える。

財団活動に対しては、年を重ねる毎に改めてその役割が認識され、今後の活動も期待されている。日韓両国政府、関係者から良い評価を頂き、また事業に参加した韓国企業の社員やセミナーの受講者からも、講師・専門家の助言や、指導内容が大変有益であったと感謝されている。

これまでも度々言われて来たことであるが、韓国経済の下支えとなるべきいわゆる部品・素材産業の成長が未だ十分でない状況下、資本財、部品等の供給を日本や欧米に依存せざるを得ない経済環境と産業構造は大きく変わっていない。そのため、対日貿易赤字は依然として減少しておらず、むしろ増加の傾向にあり、引続き韓国の中堅・中小製造業への更なる育成・強化が必要とされている。

平成22年度は、基本財産の運用益の外に、政府からの拠出金並びに日韓文化交流基金から199,402千円（外務省40,000千円、経済産業省110,108千円、基金49,294千円）を得て運営並びに事業を実施した。

1. 当年度中、理事会3回、評議員会2回を開催し、財団運営の重要事項について審議、議決を行った。
2. 平成22年度は、平成21年度第2回理事会で承認された事業計画に従い下記事業を実施した。

(1) 日韓ビジネス交流促進事業	4事業
(2) 環境・省エネルギー関連事業	2事業
(3) 地域間交流事業	4事業
(4) 産業・技術交流事業	3事業
(5) 調査・広報事業	4事業
3. 日韓両財団の共同事業
日韓中小企業ビジネス促進事業、日韓中小企業商談会、環境・省エネルギー関連セミナー、環境・省エネルギー経営者交流事業、先進企業技術交流事業（日本語教育・企業実習）の6事業を実施した。
4. 諸会議
 - (1) 日韓両財団第17回連絡協議会を平成22年(2010年)4月16日岡山にて開催した。
 - (2) 日韓両財団第18回連絡協議会幹事会を平成22年(2010年)8月25日東京にて開催した。
 - (3) 日韓両財団第18回連絡協議会幹事会実務者会議を平成22年(2010年)11月11・12日ソウルにて開催した。

以上が、平成22年度の事業及び諸会議の概要である。

Ⅱ. 理 事 会

今年度は3回の理事会を開催、第1回は飯島英胤理事長（東レ株式会社特別顧問）、第2回は山崎弘常務理事、佐々木幹夫理事長（三菱商事株式会社取締役会長（当時））、第3回は同じく佐々木幹夫理事長の議長のもとに議題を審議し、表決が必要な事項については、すべて原案どおり異議なく可決承認された。各理事会の概要は以下のとおりである。

1. 平成22年度 第1回理事会

平成22年6月16日（水） 午後2時00分～2時20分

当財団会議室

出席者 21名（内訳：理事本人 9名、表決委任 5名、書面表決 7名）

欠席者 2名

〔理事総数 23名〕

〔議決事項〕

第1号議案 平成21年度事業報告(案)承認の件

第2号議案 平成21年度収支決算報告(案)承認の件

第3号議案 任期満了等に伴う評議員選出承認の件

2. 平成22年度 第2回理事会

平成22年6月16日（水） 午後2時40分～3時00分

当財団会議室

出席者 23名（内訳：理事本人 10名、表決委任 6名、書面表決 7名）

欠席者 0名

〔理事総数 23名〕

〔議決事項〕

第1号議案 理事長、副理事長、専務理事及び常務理事互選(案)の件

第2号議案 新公益法人制度移行準備検討委員会設置の件

3. 平成22年度 第3回理事会

平成23年3月25日（金） 午後3時30分～4時00分

当財団会議室

出席者 21名（内訳：理事本人 3名、表決委任 7名、書面表決 11名）

欠席者 1名

〔理事総数 22名〕

〔議決事項〕

第1号議案 平成23年度事業計画(案)承認の件

第2号議案 平成23年度収支予算(案)承認の件

第3号議案 評議員選出承認の件

〔報告事項〕

①新公益法人制度移行に関する報告

以 上

Ⅲ. 評 議 員 会

今年度は2回の評議員会を開催。互選の結果、清水紘一郎評議員（株式会社ホテルオークラ東京特別顧問）が議長となって議題を審議し、表決が必要な事項については、すべて原案どおり異議なく承認された。各評議員会の概要は以下のとおりである。

1. 平成22年度 第1回評議員会

平成22年6月16日（水） 午後2時20分～2時40分

当財団会議室

出席者 14名（内訳：評議員本人 6名、表決委任 4名、書面表決 4名）

欠席者 2名

〔評議員総数 16名〕

〔議決事項〕

第1号議案 任期満了等に伴う理事及び監事選任承認の件

第2号議案 新公益法人制度移行準備検討委員会設置の件

〔報告事項〕

① 平成21年度事業報告

② 平成21年度収支決算報告

2. 平成22年度 第2回評議員会

平成23年3月25日（金） 午後3時00分～3時30分

当財団会議室

出席者 16名（内訳：評議員本人 4名、表決委任 12名）

欠席者 0名

〔評議員総数 16名〕

〔審議事項〕

①平成23年度事業計画(案)の件

②平成23年度収支予算(案)の件

〔報告事項〕

①新公益法人制度移行に関する報告

以 上

IV. 主要事業活動

平成22年3月25日の理事会及び評議員会で承認された事業計画に従い、下記事業を実施した。(主な事業の詳細は5頁以下参照)

【共同】：韓日財団との共同事業

1. 日韓ビジネス交流促進事業
 - (1) 日韓中小企業ビジネス促進事業 【共同】
 - (2) 日韓中小企業商談会 【共同】
 - (3) 部品素材工団投資訪韓ミッション
 - (4) 日韓中小企業産業技術フォーラム企業交流事業

2. 環境・省エネルギー関連事業 【共同】
 - (1) 環境・省エネルギー関連セミナー
 - (2) 環境・省エネルギー経営者交流事業

3. 地域間交流事業
 - (1) 九州・韓国産業交流事業
 - (2) 北陸・韓国産業交流事業
 - (3) 石川・韓国産業交流事業
 - (4) 九州・韓国南部クラスター交流事業

4. 産業・技術交流事業
 - (1) 先進企業技術交流事業 【共同】
 - (a) 日本語教育
 - (b) 企業実習
 - (2) 理工系大学院生研究交流事業
(財団法人 日韓文化交流基金 委託事業)

5. 調査・広報事業
 - (1) 日韓経済連携関連事業
 - (2) 各種調査・研究事業
 - (3) 日韓グリーン産業調査事業
 - (4) 財団ホームページ整備

1. 日韓ビジネス交流促進事業

事業名	(1) 日韓中小企業ビジネス促進事業 【共同事業】																																																								
事業内容	<p>日韓でビジネスを希望する両国の企業情報・商品情報をネット上で紹介し、韓国との製品・商品の売買、生産委託、技術提携・事業提携等に関心のある企業に対して、ITを活用して日常的に支援する。その手段として日韓ビジネスマッチングサイト（JK-BIC）を運営している。サイト上に相談コーナー・企業情報登録コーナーを設け、ビジネス相談・企業登録を可能とする。商談を希望する企業同士の商談のアレンジを実施する。</p>																																																								
実施状況	<p>日韓間のビジネスを展開したいが言葉の壁等で悩んでいる中小企業を日常的に支援し、日韓ビジネス連携の促進を図った。</p> <p>支援した内容は、①各種ビジネス相談、②企業調査、③パートナー探し、④企業の信用情報提供、⑤韓国語によるコミュニケーション、⑥企業訪問・商談アレンジ、⑦通訳の手配等である。</p> <p>支援ガイドラインを設け、①主な対象企業を部品・素材及びものづくり関連企業、②主な支援対象者を法人（株式会社）に所属される方とした。③ただし、食品・飲料品、農林・水産、不動産・金融、医薬品の業種、雇用を伴う人材紹介、大企業同士のビジネスマッチング、又成約後のビジネストラブル対応は支援対象外とした。</p> <p>事業推進の為、日韓ビジネスマッチングサイト http://www.jk-bic.jp を運営すると共に、(財)韓日産業・技術協力財団の日本ビジネス協力センターと連携し、両国スタッフがアドバイザーとして言語・商習慣の違い等の壁を取り払い、質の高い情報を通じたビジネス交流を常時可能とする体制を構築した。</p> <p>センターの利用促進の為、広報ツール（パンフレット、ポスター等）を一新し、「日韓ビジネスガイド（入門編）」冊子を作成した。さらに中小企業を対象とした展示会への出展（4件）、マスコミ広報等を実施した。</p> <p>【事業成果概要】</p> <p>2010年4月～2011年3月に受け付けたビジネス相談件数 合計 238件</p> <p>(1) 日本企業からのビジネス相談受付（企業登録案件を含む）：123件</p> <p>(2) 韓国企業からのビジネス相談受付（企業登録案件を含む）：115件</p> <p style="text-align: center;">表. 月別相談受付件数（件）</p> <table border="1" data-bbox="236 1630 1433 1814"> <thead> <tr> <th></th> <th>4月</th> <th>5月</th> <th>6月</th> <th>7月</th> <th>8月</th> <th>9月</th> <th>10月</th> <th>11月</th> <th>12月</th> <th>1月</th> <th>2月</th> <th>3月</th> <th>累計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日本企業</td> <td>6</td> <td>15</td> <td>16</td> <td>15</td> <td>9</td> <td>4</td> <td>11</td> <td>17</td> <td>4</td> <td>6</td> <td>9</td> <td>11</td> <td>123</td> </tr> <tr> <td>韓国企業</td> <td>23</td> <td>12</td> <td>6</td> <td>14</td> <td>11</td> <td>10</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>4</td> <td>9</td> <td>7</td> <td>7</td> <td>115</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>29</td> <td>27</td> <td>22</td> <td>29</td> <td>20</td> <td>14</td> <td>17</td> <td>23</td> <td>8</td> <td>15</td> <td>16</td> <td>18</td> <td>238</td> </tr> </tbody> </table> <p>成約件数：10件、 ビジネスマッチング件数：34件</p> <p>成約内容：（輸入）柔道場用LED照明、ビニールハウス、印刷物、線材の加工委託・素材購入、車輻部品調達、ブローンアスファルト・防水アスファルト調達</p> <p>（輸出）自動ひび卵検査装置、異常卵検査装置、排水処理薬品の代理店開設</p>		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	日本企業	6	15	16	15	9	4	11	17	4	6	9	11	123	韓国企業	23	12	6	14	11	10	6	6	4	9	7	7	115	合計	29	27	22	29	20	14	17	23	8	15	16	18	238
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計																																												
日本企業	6	15	16	15	9	4	11	17	4	6	9	11	123																																												
韓国企業	23	12	6	14	11	10	6	6	4	9	7	7	115																																												
合計	29	27	22	29	20	14	17	23	8	15	16	18	238																																												

1. 日韓ビジネス交流促進事業

事業名	(2) 日韓中小企業商談会 【共同事業】																																																												
事業内容	両国の中小企業の連携による相互補完の関係、ウィン・ウィンの日韓関係構築を目的とし、日韓両国の財団主催のもと、第14回 日韓中小企業商談会を東京で、第15回 日韓中小企業商談会をソウルで実施した。																																																												
実 施 状 況	<p>I. 第14回 日韓中小企業商談会の開催概要（来日、東京）</p> <p>1) 日程・場所：平成22年6月18日（金）、品川プリンスホテル メインタワー28階「苗場」 6月17日（木） 韓国企業 来日、大田区工場見学、企業交流会 6月18日（金） 9：30～17：30 商談会 6月19日（土） 韓国企業 帰国</p> <p>2) 商談会：韓国企業20社、日本企業59社、合計79社が参加。合計119件の商談を実施。5ヶ月後のフォローアップ時点で成約が1件、商談継続中が28件であった。</p> <p style="text-align: right;">*委託：三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)</p>																																																												
	<p>II. 第15回 日韓中小企業商談会の開催概要（訪韓、ソウル）</p> <p>1) 日程・場所：平成22年9月29日（水）、ロッテホテルソウル2階「Crystal Ballroom」 9月29日（水） 10：00～20：00 日韓産業技術フェア開会式・商談会・企業交流会</p> <p>2) 商談会：日本企業19社、韓国企業94社、合計113社が参加し、127件の商談を実施。5ヶ月後のフォローアップ時点で成約が1件、継続中40件、サンプルオーダー4件であった。</p>																																																												
	<p style="text-align: center;">表 日本側参加企業の一覧</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">企業名</th> <th style="width: 50%;">商談内容</th> <th style="width: 20%;">種別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>(株) ワイズ</td><td>ハードウェア・ソフトウェアの調達</td><td>輸入</td></tr> <tr><td>日発販売(株)</td><td>自動車精密部品、電機精密部品の調達</td><td>輸入</td></tr> <tr><td>フドー(株)</td><td>金型、プラスチック射出成形品の生産委託・調達</td><td>輸入</td></tr> <tr><td>(株) イセキ</td><td>管球、照明器具、電材等の調達</td><td>輸入</td></tr> <tr><td>富士電機レイルシステム(株)</td><td>自販機、アミューズメント機器部品の調達</td><td>輸入</td></tr> <tr><td>蒲田工業(株)</td><td>ゴム・樹脂ライニングの為の母材の調達</td><td>輸入</td></tr> <tr><td>三乗工業(株)</td><td>自動車内装部品の調達</td><td>輸入</td></tr> <tr><td>(株) 山愛</td><td>印刷物の生産委託、販促商品の調達</td><td>輸入</td></tr> <tr><td>寿産業(株)</td><td>製鉄用関連機器の調達</td><td>輸入</td></tr> <tr><td>(株) バンダイ</td><td>おもちゃ関連製品の調達・生産委託</td><td>輸入</td></tr> <tr><td>アイダエンジニアリング(株)</td><td>プレス機械、産業用ロボット等部品の生産委託</td><td>輸入</td></tr> <tr><td>クリヤマ(株)</td><td>ゴム・樹脂、金属関連部品の調達</td><td>輸入</td></tr> <tr><td>不二精機(株)</td><td>精密金型、成型システム部品の調達</td><td>輸入</td></tr> <tr><td>(株) 三晃製作所</td><td>機械加工・自動専用機部品の調達</td><td>輸入</td></tr> <tr><td>吉野電機(株)</td><td>薄板金属加工部品の生産委託</td><td>輸入</td></tr> <tr><td>(株) 東陽</td><td>工作機械・工具の調達</td><td>輸入</td></tr> <tr><td>IPU トレーディング(合)</td><td>環境技術、プラント等の業務提携</td><td>輸入</td></tr> <tr><td>東成鋼管(株)</td><td>鋼管・鋼材の輸出</td><td>輸出</td></tr> <tr><td>ミサワアーキテチャー(株)</td><td>太陽光発電システム、環境関連機器の輸出</td><td>輸出</td></tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">*委託：三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)</p>		企業名	商談内容	種別	(株) ワイズ	ハードウェア・ソフトウェアの調達	輸入	日発販売(株)	自動車精密部品、電機精密部品の調達	輸入	フドー(株)	金型、プラスチック射出成形品の生産委託・調達	輸入	(株) イセキ	管球、照明器具、電材等の調達	輸入	富士電機レイルシステム(株)	自販機、アミューズメント機器部品の調達	輸入	蒲田工業(株)	ゴム・樹脂ライニングの為の母材の調達	輸入	三乗工業(株)	自動車内装部品の調達	輸入	(株) 山愛	印刷物の生産委託、販促商品の調達	輸入	寿産業(株)	製鉄用関連機器の調達	輸入	(株) バンダイ	おもちゃ関連製品の調達・生産委託	輸入	アイダエンジニアリング(株)	プレス機械、産業用ロボット等部品の生産委託	輸入	クリヤマ(株)	ゴム・樹脂、金属関連部品の調達	輸入	不二精機(株)	精密金型、成型システム部品の調達	輸入	(株) 三晃製作所	機械加工・自動専用機部品の調達	輸入	吉野電機(株)	薄板金属加工部品の生産委託	輸入	(株) 東陽	工作機械・工具の調達	輸入	IPU トレーディング(合)	環境技術、プラント等の業務提携	輸入	東成鋼管(株)	鋼管・鋼材の輸出	輸出	ミサワアーキテチャー(株)	太陽光発電システム、環境関連機器の輸出
企業名	商談内容	種別																																																											
(株) ワイズ	ハードウェア・ソフトウェアの調達	輸入																																																											
日発販売(株)	自動車精密部品、電機精密部品の調達	輸入																																																											
フドー(株)	金型、プラスチック射出成形品の生産委託・調達	輸入																																																											
(株) イセキ	管球、照明器具、電材等の調達	輸入																																																											
富士電機レイルシステム(株)	自販機、アミューズメント機器部品の調達	輸入																																																											
蒲田工業(株)	ゴム・樹脂ライニングの為の母材の調達	輸入																																																											
三乗工業(株)	自動車内装部品の調達	輸入																																																											
(株) 山愛	印刷物の生産委託、販促商品の調達	輸入																																																											
寿産業(株)	製鉄用関連機器の調達	輸入																																																											
(株) バンダイ	おもちゃ関連製品の調達・生産委託	輸入																																																											
アイダエンジニアリング(株)	プレス機械、産業用ロボット等部品の生産委託	輸入																																																											
クリヤマ(株)	ゴム・樹脂、金属関連部品の調達	輸入																																																											
不二精機(株)	精密金型、成型システム部品の調達	輸入																																																											
(株) 三晃製作所	機械加工・自動専用機部品の調達	輸入																																																											
吉野電機(株)	薄板金属加工部品の生産委託	輸入																																																											
(株) 東陽	工作機械・工具の調達	輸入																																																											
IPU トレーディング(合)	環境技術、プラント等の業務提携	輸入																																																											
東成鋼管(株)	鋼管・鋼材の輸出	輸出																																																											
ミサワアーキテチャー(株)	太陽光発電システム、環境関連機器の輸出	輸出																																																											

1. 日韓ビジネス交流促進事業

事業名	(3) 部品素材工団投資訪韓ミッション	
事業内容	<p>日韓首脳会談で韓国から協力要請を受けた部品素材専用工業団地へ投資を図るために、日本経営者、投資担当者等を派遣する2年目の事業である。30名、29社が参加した。韓国南部3か所(浦項市、蔚山市、釜山/鎮海自由経済特区)を2泊3日の日程でまわり投資環境説明会、現地説明会、現地視察、工場見学、地元企業/日本からの進出企業との交流会を行った。</p>	
実施状況	1. 実施状況	
	日程	内 容
	10/27(水)	<p>11:10 成田空港発 13:20 釜山・金海空港着 移動 浦項市フィロスホテルへ 17:00 投資環境説明会 ①知識經濟部李事務官「大韓民国の外国人投資環境および投資機会」 ②ソウル・ジャパン・クラブ長井理事長「進出日本企業から見た韓国投資環境」 ③韓国労総李局長「韓国の労働問題」 19:00 企業交流会 工団関係者・地元企業・進出日本企業との交流</p>
	10/28(木)	<p>8:30 ホテル発 9:00 浦項市庁「部品素材専用工団」投資説明 現地工団視察、POSCO燃料電池工場見学、迎日新港湾視察 移動 蔚山市部品素材工団へ 14:30 部品素材工団視察 モジュール化工団視察－大同ハイテックス工場見学 現代自動車工場見学 新一般工団視察 移動 蔚山ロッテホテルへ 18:30 蔚山工団投資環境説明会 企業交流会 工団関係者・地元企業・進出日本企業との交流</p>
10/29(金)	<p>8:00 ホテル発 移動 釜山・鎮海FEZ/VISION2020HALLへ 9:30 釜山部品素材専用工団投資環境説明 光陽湾FEZ投資誘致説明 移動 美音部品素材専用工団へ 現地説明、現地視察 12:00 移動 釜山・金海空港へ 空港で解散 14:15 釜山・金海空港発</p>	
<p>2. 成果等： 参加企業の多くは、すぐに韓国進出を図るという計画はないが、中期的な展望の中での韓国投資の可否や韓国経済状況把握の観点で参加された。具体的な工場進出プランを持った上で参加される企業もあった。なお、フォローアップとして帰国後各社にインタビューを実施、各社の考えを聴き取りした。 後援：在大韓民国日本国大使館／協力：韓日産業・技術協力財団 *委託：日刊工業新聞社</p>		

1. 日韓ビジネス交流促進事業

事業名	(4) 日韓中小企業産業技術フォーラム企業交流事業
事業内容	日本で開催される日韓中小企業産業技術フォーラムの一環として、商談会の前日に来日する韓国企業を対象として工場見学、経営セミナー、パネルディスカッション、企業交流会を実施することにより、日韓の中小企業同士の交流を促進する。
実施状況	<p>「第2回 日韓中小企業産業技術フォーラム」開催概要（来日、東京）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日 程：平成 22 年 6 月 17 日（木）午後（日韓中小企業商談会(6/18)の前日） 2. 参加者：韓国企業 22 社（日韓中小企業商談会(6/18)参加のため来日した韓国企業） 3. 実施概要： <ol style="list-style-type: none"> 1) 【工場見学】 <ul style="list-style-type: none"> ・日 時：平成 22 年 6 月 17 日（木）13:00～14:00 ・見学先：(株) 三和電機製作所（大田区） ・内 容：会社概要説明、工場見学、質疑・意見交換 2) 【経営セミナー】 <ul style="list-style-type: none"> ・日 時：平成 22 年 6 月 17 日（木）14:30～15:50 ・会 場：大田区産業プラザ PiO 6 階 D 会議室 ・テーマ：「グローバル市場への挑戦」 ・講 師：(株) 井口機工製作所 代表取締役社長 井口薫氏 3) 【パネルディスカッション】 <ul style="list-style-type: none"> ・日 時：平成 22 年 6 月 17 日（木）16:00～17:00 ・会 場：大田区産業プラザ PiO 6 階 D 会議室 ・テーマ：最近の経営環境についての認識／経営上の課題／グローバル戦略 ・パ ー ト ナ ー：林哲夫氏（三和電機製作所 社長）、井口薫氏（井口機工製作所 社長） 朴英錫氏（韓国 MTIG 社長） ・進 行：是永和夫氏（日韓産業技術協力財団 専務理事） 4) 【企業交流会】 <ul style="list-style-type: none"> ・日 時：平成 22 年 6 月 17 日（木）17:30～19:00 ・会 場：大田区産業プラザ PiO 4 階レストラン「コルネット」 ・内 容：懇親パーティ 4. アンケート調査： <p>フォーラム当日、韓国側参加者に自由記述でアンケート調査を実施した。「参考になった」回答が、工場見学 100%、経営セミナー88%、ディスカッション 81%あり、好評であった。</p> 5. メディア掲載： <p>フォーラム当日の工場見学、経営セミナー、パネルディスカッションの様子が、7 月 28 日付の日刊工業新聞に掲載された。ほぼ 1 面を割いた掲載紙面にてセミナーや討議の内容が紹介され、本交流事業の成果広報に役立った。</p> <p style="text-align: right;">*委託：日刊工業新聞社</p>

2. 環境・省エネルギー関連事業

事業名	(1) 環境・省エネルギー関連セミナー 【共同事業】
事業内容	<p>日韓両国の中堅・中小企業におけるビジネス交流拡大を図るため、本年9月ソウルにて開催された「2010年日韓部品素材調達展示商談会－日韓産業技術フェア」の一環として、「環境・省エネルギー関連セミナー」を実施した。</p>
実施状況	<p>「2010年度 環境・省エネルギー関連セミナー」開催概要（訪韓、ソウル）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日 程：2010年9月29日（水） 2. 場 所：ソウル市ロッテホテルソウル2階 クリスタルボールルーム 3. 参加者：韓国中堅・中小企業中心に130名 4. 実施概要： <p>【開会式】10:00～10:30：「2010年日韓部品素材調達展示商談会－日韓産業技術フェア」合同</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 来賓挨拶： 韓国 知識經濟部 朴 永 俊 次官 日本 経済産業省 松下 忠洋 副大臣 2) 開会挨拶： 韓日産業・技術協力財団 金 熙 勇 副理事長 日韓産業技術協力財団 佐々木 幹夫 理事長 韓国貿易協会 呉 永 鎬 副会長 日本貿易振興機構 中富 道隆 副理事長 3) 韓日産業協力功労者表彰（受賞12名） <p>【セミナー】11:00～16:30：「日韓産業技術フェア」－第15回日韓中小企業商談会と同時開催</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 講演Ⅰ 環境・省エネルギー（11:00～12:20） (株)パイオニア風力機 代表取締役社長 戸次英之 氏 「無から有を生み出す開発・創造型企業」 2) 講演Ⅱ 新経営（13:30～14:50） (株)アモテック代表 金炳圭 氏 （KOSDAQ協会会長） 「中小企業の生き延びる道－“最初技術”と“最高技術”」 3) 講演Ⅲ ものづくり経営（15:10～16:30） (株)かいわ 代表取締役社長 山添重幸 氏 「限界を超えた超薄肉・超微細プラスチック製品を可能にする技術はひとづくりと環境づくりが大事」 5. 参加者アンケート結果 各々個性ある発表内容、独特な経営者主観、情熱的な講演姿勢が、参加者から高い評価を得た。特に「新経営」および「ものづくり」講演の満足度が高かった。 <p style="text-align: right;">*委託：日刊工業新聞社</p>

2. 環境・省エネルギー関連事業

事業名	(2) 環境・省エネルギー経営者交流事業 -技術者専門セミナー- 【共同事業】																					
事業内容	韓国中堅・中小企業の技術者を日本に招聘し、初めて首都圏で環境・省エネルギーに関連する専門技術の習得をねらって実施した。(2010年度(第3回)) (1) 対象：韓国製造業 中堅・中小企業 技術者 15名 (2) 期間：6日 (3) 内容：a) 日本企業の省エネ・低コスト&環境経営への取り組みを知る b) 省エネ活動の具体的手法についても講義と工場見学による事例研究で学ぶ c) 日本最大の環境・省エネ技術展示会の視察とシンポジウム参加により最先端の技術を学ぶ																					
実施状況	1. 実施状況 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 5px;"> <tr> <td style="width: 15%; text-align: center;">期 間</td> <td>2010年9月12日(日)～9月17日(金)(来日～帰国)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">場 所</td> <td>リフレフォーラム(東京都江東区)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">参加者</td> <td>15名</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">日 程</td> <td style="text-align: center;">内 容</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">9/12(日)</td> <td>来日 1) 開講式 2) 歓迎交流会</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">9/13(月)</td> <td>1) 講義①環境経営・環境負荷低減の動向(KITA/藤本氏) 2) 講義②日本中小企業の環境経営の取組み (産学官連携コーディネーター/伊藤氏)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">9/14(火)</td> <td>1) 事例研究①省エネ取組みと事例紹介(山武藤沢テクノセンター) 2) 事例研究②川崎ゼロミッション工業団地と世界初のゼロミッション工場 (コアレックス東京工場)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">9/15(水)</td> <td>1) 講義③中小企業における省エネ・環境管理実践のポイント (中小企業診断士/佐藤氏) 2) 事例研究③メッキ処理工場の環境管理活動の取組み(ニシハラ理工)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">9/16(木)</td> <td>1) 先進動向①Eco-Manufacture2010 視察(東京ビックサイト) 2) 先進動向②環境・省エネルギー対策技術シンポジウム参加 (東京ビックサイト) 3) 閉講式 4) 送別交流会</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">9/17(金)</td> <td>1) 事例研究③ISO14001 とエネルギーマネジメントシステムの取組み (小川香料) 帰国</td> </tr> </table>		期 間	2010年9月12日(日)～9月17日(金)(来日～帰国)	場 所	リフレフォーラム(東京都江東区)	参加者	15名	日 程	内 容	9/12(日)	来日 1) 開講式 2) 歓迎交流会	9/13(月)	1) 講義①環境経営・環境負荷低減の動向(KITA/藤本氏) 2) 講義②日本中小企業の環境経営の取組み (産学官連携コーディネーター/伊藤氏)	9/14(火)	1) 事例研究①省エネ取組みと事例紹介(山武藤沢テクノセンター) 2) 事例研究②川崎ゼロミッション工業団地と世界初のゼロミッション工場 (コアレックス東京工場)	9/15(水)	1) 講義③中小企業における省エネ・環境管理実践のポイント (中小企業診断士/佐藤氏) 2) 事例研究③メッキ処理工場の環境管理活動の取組み(ニシハラ理工)	9/16(木)	1) 先進動向①Eco-Manufacture2010 視察(東京ビックサイト) 2) 先進動向②環境・省エネルギー対策技術シンポジウム参加 (東京ビックサイト) 3) 閉講式 4) 送別交流会	9/17(金)	1) 事例研究③ISO14001 とエネルギーマネジメントシステムの取組み (小川香料) 帰国
期 間	2010年9月12日(日)～9月17日(金)(来日～帰国)																					
場 所	リフレフォーラム(東京都江東区)																					
参加者	15名																					
日 程	内 容																					
9/12(日)	来日 1) 開講式 2) 歓迎交流会																					
9/13(月)	1) 講義①環境経営・環境負荷低減の動向(KITA/藤本氏) 2) 講義②日本中小企業の環境経営の取組み (産学官連携コーディネーター/伊藤氏)																					
9/14(火)	1) 事例研究①省エネ取組みと事例紹介(山武藤沢テクノセンター) 2) 事例研究②川崎ゼロミッション工業団地と世界初のゼロミッション工場 (コアレックス東京工場)																					
9/15(水)	1) 講義③中小企業における省エネ・環境管理実践のポイント (中小企業診断士/佐藤氏) 2) 事例研究③メッキ処理工場の環境管理活動の取組み(ニシハラ理工)																					
9/16(木)	1) 先進動向①Eco-Manufacture2010 視察(東京ビックサイト) 2) 先進動向②環境・省エネルギー対策技術シンポジウム参加 (東京ビックサイト) 3) 閉講式 4) 送別交流会																					
9/17(金)	1) 事例研究③ISO14001 とエネルギーマネジメントシステムの取組み (小川香料) 帰国																					
	2. 成果概要等 首都圏でエコ・マニファクチャー2010 に合わせた初めての開催で韓日財団との共同事業である。一週間という短い日程のなかにコンパクトに必要なコンテンツを盛り込んだ。専門技術者が中心のため専門的観点からの質疑をシンポジウムで沢山出されており、十分満足してもらえたセミナーになった。帰国後の業務に大いに参考になったとの声が多く出されていた。 <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">*委託：(社)日本能率協会</div>																					

2. 環境・省エネルギー関連事業

事業名	(2) 環境・省エネルギー経営者交流事業 －経営者セミナー－ 【共同事業】																				
事業内容	<p>韓国中堅・中小企業の経営幹部を日本に招聘し、福岡県を中心とした九州で環境・省エネルギーに関連する環境経営・環境事業の実態把握をねらって実施した。(2010年度(第3回))</p> <p>(1) 対象：韓国製造業 中堅・中小企業 経営幹部 15名</p> <p>(2) 期間：6日</p> <p>(3) 内容：a) 日本企業の省エネ・低コスト&環境経営への取り組みを知る b) 省エネ活動の具体的手法についても講義と工場見学による事例研究で学ぶ c) 西日本最大級のエコテクノ 2010 を視察して最新の環境・省エネ技術を把握する</p>																				
実施状況	<p>1. 実施状況</p> <table border="1" data-bbox="256 707 1426 1675"> <tr> <td>期 間</td> <td>2010年10月11日(月)～10月16日(土)(来日～帰国)</td> </tr> <tr> <td>場 所</td> <td>ホテルクラウンパレス(福岡県北九州市小倉北区)</td> </tr> <tr> <td>参加者</td> <td>15名</td> </tr> <tr> <td>日 程</td> <td>内 容</td> </tr> <tr> <td>10/11(月)</td> <td>来日 1) 開講式 2) 歓迎懇親会</td> </tr> <tr> <td>10/12(火)</td> <td>1) 講義①日本企業の省エネ・省コスト&環境経営への取組み (K I T A/藤本氏) 2) 事例研究①環境テクノロジー&3Rビジネスの実際 (西日本オートリサイクル/西日本家電リサイクル)</td> </tr> <tr> <td>10/13(水)</td> <td>1) 事例研究②中小企業の環境経営活動(上村紙業) 2) 事例研究③5Sの徹底とセル生産(TOTO小倉第2工場)</td> </tr> <tr> <td>10/14(木)</td> <td>1) 講義②TPS(九州モノづくり研究所/雨澤氏) 2) 事例研究④TPSの実際(トヨタ自動車九州)</td> </tr> <tr> <td>10/15(金)</td> <td>1) 先進動向①エコテクノ 2010 視察(西日本総合展示場) 2) 事例研究⑤中小企業の省エネ活動(中島ターレット) 3) 閉講式 4) 送別交流会</td> </tr> <tr> <td>10/16(土)</td> <td>帰国</td> </tr> </table> <p>2. 成果概要等</p> <p>経営幹部を対象にして環境経営あるいは環境ビジネスに関連した新規技術紹介をコンテンツとした。今回の参加者は環境/エネルギー関連業種、電気/電子関連業種の中小企業経営者が多かったが、環境改善と生産性向上が結びついた日本の経営活動に新鮮な驚きを覚えた方が多く企画と参加者のニーズがうまくマッチすることができた。</p> <p style="text-align: right;">*委託：(財)北九州国際技術協力協会</p>	期 間	2010年10月11日(月)～10月16日(土)(来日～帰国)	場 所	ホテルクラウンパレス(福岡県北九州市小倉北区)	参加者	15名	日 程	内 容	10/11(月)	来日 1) 開講式 2) 歓迎懇親会	10/12(火)	1) 講義①日本企業の省エネ・省コスト&環境経営への取組み (K I T A/藤本氏) 2) 事例研究①環境テクノロジー&3Rビジネスの実際 (西日本オートリサイクル/西日本家電リサイクル)	10/13(水)	1) 事例研究②中小企業の環境経営活動(上村紙業) 2) 事例研究③5Sの徹底とセル生産(TOTO小倉第2工場)	10/14(木)	1) 講義②TPS(九州モノづくり研究所/雨澤氏) 2) 事例研究④TPSの実際(トヨタ自動車九州)	10/15(金)	1) 先進動向①エコテクノ 2010 視察(西日本総合展示場) 2) 事例研究⑤中小企業の省エネ活動(中島ターレット) 3) 閉講式 4) 送別交流会	10/16(土)	帰国
期 間	2010年10月11日(月)～10月16日(土)(来日～帰国)																				
場 所	ホテルクラウンパレス(福岡県北九州市小倉北区)																				
参加者	15名																				
日 程	内 容																				
10/11(月)	来日 1) 開講式 2) 歓迎懇親会																				
10/12(火)	1) 講義①日本企業の省エネ・省コスト&環境経営への取組み (K I T A/藤本氏) 2) 事例研究①環境テクノロジー&3Rビジネスの実際 (西日本オートリサイクル/西日本家電リサイクル)																				
10/13(水)	1) 事例研究②中小企業の環境経営活動(上村紙業) 2) 事例研究③5Sの徹底とセル生産(TOTO小倉第2工場)																				
10/14(木)	1) 講義②TPS(九州モノづくり研究所/雨澤氏) 2) 事例研究④TPSの実際(トヨタ自動車九州)																				
10/15(金)	1) 先進動向①エコテクノ 2010 視察(西日本総合展示場) 2) 事例研究⑤中小企業の省エネ活動(中島ターレット) 3) 閉講式 4) 送別交流会																				
10/16(土)	帰国																				

3. 地域間交流事業

事業名	<p>(1) 九州・韓国産業交流事業</p> <p>(2) 北陸・韓国産業交流支援</p> <p>(3) 石川・韓国産業交流事業</p>
事業内容	<p>日韓両国の地域間交流を支援することにより、両国間の貿易・投資・産業協力を促進する。</p> <p>(1) 「九州・韓国経済交流会議」は、両国政府、地方自治体、民間団体を中心に、1993年度より毎年度実施（隔年で日本・韓国内で年1回開催）。</p> <p>(2) 「北陸・韓国経済交流会議」は、両国政府、地方自治体、民間団体を中心に、2000年度より毎年度実施（隔年で日本・韓国内で年1回開催）。</p> <p>(3) 「石川・韓国産業交流事業」はIT企業を対象として、石川県及び(財)石川県産業創出支援機構と(財)大邱デジタル産業振興院を中心に、2003年度より毎年度実施（金沢市と大邱広域市で各1回、年2回開催）。</p>
実施状況	<p>(1) <u>九州・韓国産業交流事業</u></p> <p>1) 実施期間：10月13日(水)～10月14日(木)</p> <p>2) 実施場所：北九州市 北九州国際会議場、西日本総合展示場(エコテクノ2010開催)</p> <p>3) 主要行事：日本側46名、韓国側33名、計79名参加 今年度は、「環黄海経済・技術交流会議」や「九州・中国産業技術協議会」も同時開催。</p> <p>① 「第17回九州・韓国経済交流会議」開催(10/13) ・九州経済産業局長、知識経済部貿易政策官が議長。IT、環境、人材分野での交流等、19事業について相互協力することに合意。</p> <p>② 「九州・韓国・中国環境ビジネス交流会」開催(10/14) ・九州59社、韓国25社の環境・省エネ関連企業間のビジネス交流・商談会。中国企業26社も参加。商談件数114件(内韓国企業60件)、日本企業成約2件。</p> <p>(2) <u>北陸・韓国産業交流事業</u></p> <p>1) 実施期間：8月3日(火)～8月5日(木)</p> <p>2) 実施場所：富山市 富山第一ホテル、富山産業展示館、富山市体育文化センター(富山県ものづくり総合見本市開催)</p> <p>3) 主要行事：日本側164名、韓国側36名、計200名参加 今年度の官民合同会議は廃止したが、中部経済産業局長、知識経済部通商協力政策他、韓国蔚山、大邱、江原道、慶尚北道の自治体・経済団体関係者も参加。</p> <p>① 「北陸・韓国産業交流セミナー」開催(8/4) ・両国の産業政策、連携に向けた支援策について両国関係者の講演</p> <p>② 「パネルディスカッション」実施(8/4 「新しいパートナーシップの構築に向けて」)</p> <p>③ 「製薬専門分科会」開催(8/4 両国行政、関連機関、業界団体参加)</p> <p>(3) <u>石川・韓国産業交流事業</u></p> <p>① IT企業ビジネス交流 in 石川</p> <p>1) 実施期間：5月26日(水)～5月29日(土)</p> <p>2) 実施場所：金沢市 金沢エクセルホテル東急</p> <p>3) 主要行事：日本側は石川県、(財)石川県産業創出支援機構、IT企業等31名、韓国側は(財)大邱デジタル産業振興院 朴院長他9名、韓国企業8名、計48名参加</p> <p>① 「ISICO・DIP交流成果報告会」開催(5/27) ・日本企業5社、韓国企業1社、計6社からビジネス連携の成果報告</p> <p>② 商談会開催(5/28) ・石川県企業21社、韓国企業6社、商談件数21件、成約期待11件</p> <p>② IT企業ビジネス交流 in 大邱</p> <p>1) 実施期間：9月7日(月)～9月11日(土)(大邱→釜山)</p> <p>2) 実施場所：大邱広域市 大邱プリンスホテル、釜山広域市「釜山IT EXPO2010」会場</p> <p>3) 主要行事：日本側は石川県、(財)石川県産業創出支援機構、IT企業等12名、韓国側は(財)大邱デジタル産業振興院、韓国企業等26名、計38名参加</p> <p>① 商談会開催(9/8) ・石川県企業8社、韓国企業26社、商談件数45件、成約期待13件</p> <p>② 産業施設他視察(9/8 大邱慶北デザインセンター)</p> <p>③ 九州・韓国南部ITビジネス連携に係る日韓関係機関・企業と合流し意見交換会実施。</p>

3. 地域間交流事業

事業名	(4) 九州・韓国南部クラスター交流事業
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・九州地域と韓国南部地域の超広域経済圏を形成する目的で、2008年度から3カ年計画でスタート。両国機関・企業のビジネス連携を具体化し促進する事業。 ・2008年度は、日韓ビジネス連携の可能性のある産業分野の調査を実施。 ・2009年度は、上記調査結果により、環境及びITのスタートアップ事業と継続調査を実施。 ・2010年度は、2009年度の継続調査結果によりバイオビジネス分野を追加して、環境・IT・バイオの3分野でのビジネス連携推進事業を実施。
実施状況	<p>④九韓環境ビジネス連携推進事業</p> <p>九州側は、九州経済産業局、「九州地域環境・リサイクル産業交流プラザ(K-RIP)」と、韓国側の「韓国産業団公(KICOX)」、「蔚山環境産業発展協議会(U-RIP)」を中心に交流。</p> <p>1) 環境ミッション団派遣(8月31日～9月2日 釜山広域市「ENTECH2010」、8名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①国際環境・エネルギー産業展「ENTECH2010」にK-RIPがブース出展 ②U-RIP会員企業・機関との協議及び韓国企業3社視察 ③商談会(ENTEC出展企業・来場企業、日本4社、商談件数17件、成約見込み2件) <p>2) 蔚山環境ミッション団受入(10月14日～16日 北九州市、阿蘇市他、18名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①K-RIP会員及び(財)福岡県産業廃棄物協会とU-RIP会員との協議 <ul style="list-style-type: none"> ・今後、U-RIP会員企業が出資した未来新環境(株)が韓国側窓口となりK-RIPと交流 ②環境関連施設5ヶ所視察(北九州市エコタウンセンター、企業4社) <p>⑤九韓ITビジネス連携推進事業</p> <p>九州側の「北九州国際ITビジネス推進会(KLIC)」及び「(財)北九州産業学術推進機(FAIS)」と韓国側の「釜山-九州IT協議会(BIKI)」、「釜山情報産業振興院(BIPA)」を中心に企業間交流。今年度から「石川県産業創出支援機構(ISICO)」が参加。</p> <p>1) ITミッション団派遣(9月8日～11日 釜山広域市「2010 IT EXPO BUSAN」、35名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①日韓広域連携意見交換会(北九州企業、沖縄県企業、ISICOの3者より講演、質疑) ②商談会(日本24社、韓国5社、商談件数52件、成約5件、継続10件) <p>2) 釜山ITミッション団受入(9月29日～10月1日 北九州市「国際テクノフェア2010」、32名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①日韓ITセミナー(日本側1件、韓国側2件の講演、「日韓海峡知事会議」との共済) ②商談会(日本16社、韓国13社、商談件数44件) <p>3) 沖縄ミッション(11月25日～28日 沖縄県那覇市内閣府沖縄総合事務局、21名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①釜山・北九州・石川・沖縄IT企業交流会(意見交換、ITセミナー、MOU締結など) ②商談会(沖縄14社、北九州6社、石川3社、韓国5社、商談件数43件) <p>⑥九韓バイオビジネス連携推進事業</p> <p>九州側は、九州経済産業局、(株)久留米リサーチ・パークと、韓国側の釜山市、(社)釜山バイオ企業協会を中心に機関・企業間交流。</p> <p>1) 釜山バイオミッション団受入(5月19日～21日 福岡市「西日本食品産業創造展」、31名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①産業視察((株)久留米リサーチ・パーク、(株)東洋新薬) ②「九州地域バイオベンチャーフォーラム2010」交流会(西鉄グランドホテル)に参加 <p>2) バイオミッション団派遣(11月11日～13日 釜山広域市「国際水産貿易展2010」18名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①釜山テクノパーク海洋生物育成センター訪問、入居企業と意見交換 ②(社)釜山バイオ企業協会主催「ダイナミック釜山」にミッション参加企業がサンプル展示 ③日韓企業間で商談1件成立

4. 産業・技術交流事業

事業名	(1) 先進企業技術交流事業 (a) 日本語教育 【共同事業】
事業内容	日本企業での企業実習(事業(1)(b))を効果的に遂行するために、韓国企業の中堅技術者の日本語コミュニケーション能力を向上させる目的で実施する事業であり、2010年度は韓国内で実施。 ((1)(b)企業実習とリンクして実施)
実施状況	<p>1. 期間及び人数</p> <p>(1) 開講式 : 2010年7月12日</p> <p>(2) 日本語教育 : 7月13日～8月13日 (32日間の合宿形式)</p> <p>(3) 修了式 : 8月13日</p> <p>(4) 参加人員 : 15名</p> <p>2. 実施要領</p> <p>(1) 実施場所 : 現代人材開発院 国際化教育本部 (大韓民国京畿道龍仁市器興区麻北洞 80-5)</p> <p>(2) 担当教師 : 延べ4名/日(韓国人2名日本人2名)の教師によるローテーション授業</p> <p>(3) クラス編成 : 能力別に3クラス (5名/クラス)</p> <p>(4) 教育時間 : 6日/週(月～土曜日)、8時間/日で5週間、合計248時間</p> <p>3. 実施内容</p> <p>(1) 7月13日に行った筆記試験とインタビューによる能力評価テストの結果に基づき、入門クラス、初級Aクラス及び初級Bクラスの3クラス編成とした。</p> <p>(2) 教育成果を上げるために、全員に課題学習プリント(宿題)を渡し、翌朝提出させた。</p> <p>(3) クラス毎に、読み、書き、聞く、話す、の4能力向上のためのカリキュラムを設定し、視聴覚機器を使用した教育とした。後半は特別講義と関連して、ビジネス会話を中心とした。</p> <p>(4) 習熟度の確認のために週末・最終テストを実施。</p> <p>(5) 日本文化に関する以下内容の特別講義を計6回実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 7月26日、28日、8月2日、4日 : 日本の行事、歌、飲食文化、日韓文化比較等 ・ 7月30日 : 日本の文化と日本人 ・ 8月 6日 : 日本経済 の現状と対外戦略及び日本企業の競争力と強化戦略 <p>4. 実施結果</p> <p>(1) 全員が無事に所定の課程を修了したので、教育機関発行の「修了証書」を授与した。</p> <p>(2) 教育開始時にかなりのレベル差があったため、以下のようにクラス毎に教育成果に違いが出た。(以下の成果は、読む・書く・聞く・話す、4項目についてのテスト結果をポイント評価(10ポイントが満点)し、4項目を総合評価した結果である。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 入門クラス : 0.8 → 3.8 4.8倍の伸び ・ 初級Aクラス : 4.8 → 8.0 1.7倍の伸び ・ 初級Bクラス : 3.9 → 7.2 1.9倍の伸び ・ 3クラス平均 : 3.2 → 6.3 2.0倍の伸び <p>(3) 事前に教育内容、外出許可制など協議決定していたが、韓国内での教育では日本人との会話機会の不足、教育中抜け出しての所属企業の業務実施などの状況があった。</p> <p>(4) 受入企業アンケート調査結果では、40%の企業が日本語コミュニケーション良好、60%(8社)が少々問題であったと回答。日本国内での教育実施を再検討する必要がある。</p>

4. 産業・技術交流事業

事業名	(1) 先進企業技術交流事業 (b) 企業実習 【共同事業】																																						
事業内容	韓国企業の中堅技術者を日本に招聘し、国内の日本企業において、技術・経営上の課題の解決を目的とした企業実習を実施。((1)(a)日本語教育とリンクして実施)																																						
実施状況	1. 期間及び人数 (1) 入国及び歓迎会： 2010年8月24日 (日本教育会館) (2) オリエンテーション：2010年8月25日～27日 (3) 企業実習： 8月29日(受入企業へ移動)～10月30日(帰国) (63日間) (4) 参加人員： 15名参加 2. 内容 (1) 派遣企業、受入企業及び中堅技術者の、それぞれにメリットが出るような実習テーマと推進方法を計画し、受入企業と事前に意見交換を実施。 (2) 9月14日～16日に、中部・関西・九州地区の受入企業計5社を訪問し、実習状況・改善点などについて意見交換を実施。 (3) 9月15日、名古屋で実習生全員と両財団関係者出席のもと中間報告会を実施。 (4) 10月29日、受入企業関係者の出席のもと、実習終了の報告会及び送別会を実施。 (5) 2011年1月28日、実習生7名が参加し、実習成果について評価懇談会を実施。 3. 技術者派遣韓国企業(11社)及び受入日本企業(13社) <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%; text-align: center;">＜派遣企業＞</th> <th style="width: 25%; text-align: center;">＜受入企業＞</th> <th style="width: 25%; text-align: center;">＜派遣企業＞</th> <th style="width: 25%; text-align: center;">＜受入企業＞</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(1) (株) 昌星</td> <td>ナパック (株)</td> <td>(9) (株) 宇進産電</td> <td>日本車輛製造 (株)</td> </tr> <tr> <td>(2) (株) 宇進機電</td> <td>(株) 東芝</td> <td>(10) 又永産業 (株)</td> <td>片山工業 (株)</td> </tr> <tr> <td>(3) (株) 昌星</td> <td>旭化成ケミカルズ (株)</td> <td>(11) 大同HI-LEX (株)</td> <td>ハイレックスコーポレーション (株)</td> </tr> <tr> <td>(4) 大起産業 (株)</td> <td>(株) 名古屋精密金型</td> <td>(12) 韓国大塚製薬 (株)</td> <td>大塚製薬 (株)</td> </tr> <tr> <td>(5) (株) NARA CORPORATION</td> <td>(株) 西島製作所</td> <td>(13) Azbil 韓国 (株)</td> <td>(株) 山武</td> </tr> <tr> <td>(6) DK 産業 (株)</td> <td>大垣精工 (株)</td> <td>(14) (株) NARA CORPORATION</td> <td>(株) 明和工作所</td> </tr> <tr> <td>(7) (株) 瑞進CAM</td> <td>コマツNTC (株)</td> <td>(15) 又永産業 (株)</td> <td>片山工業 (株)</td> </tr> <tr> <td>(8) 韓国大塚製薬 (株)</td> <td>大塚製薬 (株)</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			＜派遣企業＞	＜受入企業＞	＜派遣企業＞	＜受入企業＞	(1) (株) 昌星	ナパック (株)	(9) (株) 宇進産電	日本車輛製造 (株)	(2) (株) 宇進機電	(株) 東芝	(10) 又永産業 (株)	片山工業 (株)	(3) (株) 昌星	旭化成ケミカルズ (株)	(11) 大同HI-LEX (株)	ハイレックスコーポレーション (株)	(4) 大起産業 (株)	(株) 名古屋精密金型	(12) 韓国大塚製薬 (株)	大塚製薬 (株)	(5) (株) NARA CORPORATION	(株) 西島製作所	(13) Azbil 韓国 (株)	(株) 山武	(6) DK 産業 (株)	大垣精工 (株)	(14) (株) NARA CORPORATION	(株) 明和工作所	(7) (株) 瑞進CAM	コマツNTC (株)	(15) 又永産業 (株)	片山工業 (株)	(8) 韓国大塚製薬 (株)	大塚製薬 (株)		
＜派遣企業＞	＜受入企業＞	＜派遣企業＞	＜受入企業＞																																				
(1) (株) 昌星	ナパック (株)	(9) (株) 宇進産電	日本車輛製造 (株)																																				
(2) (株) 宇進機電	(株) 東芝	(10) 又永産業 (株)	片山工業 (株)																																				
(3) (株) 昌星	旭化成ケミカルズ (株)	(11) 大同HI-LEX (株)	ハイレックスコーポレーション (株)																																				
(4) 大起産業 (株)	(株) 名古屋精密金型	(12) 韓国大塚製薬 (株)	大塚製薬 (株)																																				
(5) (株) NARA CORPORATION	(株) 西島製作所	(13) Azbil 韓国 (株)	(株) 山武																																				
(6) DK 産業 (株)	大垣精工 (株)	(14) (株) NARA CORPORATION	(株) 明和工作所																																				
(7) (株) 瑞進CAM	コマツNTC (株)	(15) 又永産業 (株)	片山工業 (株)																																				
(8) 韓国大塚製薬 (株)	大塚製薬 (株)																																						
	4. 実習成果及びアンケート調査結果 (1) 日本語教育期間を含め、全員が無事に所定の課程を修了し帰国した。 (2) 実習成果を業務に活用し、生産性向上、サイクルタイムの短縮、品質向上、品質コストを考慮した設計手法、材料供給メーカーの管理手法、精密測定器の導入計画などに成果を上げていること、日本企業との日本語コミュニケーションが可能となった、ことなどの報告があった。(2011.1.28 韓国で開催の評価懇談会での実習生発言) (3) 派遣企業や受入企業へのアンケート調査結果では、当事業の有効性や運営方法に肯定的な意見が多く、派遣企業として今後も派遣したい(92%)、受入企業として実習を受入れたい(9社 69%)、年度毎に受入判断(3社 23%)、との結果であった。 5. 「韓国中堅・中小企業の技術力と企業実習事業に対する関心度調査」実施 (1) 2010年11月18日～2011年3月18日、韓国淑明女子大学李 亨五教授に委託し、当該事業に対する韓国企業のニーズの把握と応募促進を目的に調査を実施。 (2) 実習事業に応募意志のある58社(アンケート回答総数108社)に対し、2011年度募集案内を出したところ2社が応募した。																																						

4. 産業・技術交流事業

事業名	(2) 理工系大学院生研究交流事業	((財) 日韓文化交流基金から受託)		
事業内容	<p>日本の理工系大学院生（博士／修士課程在籍者）を夏休みに7週間韓国へ派遣し、大学・公的研究機関で研究研修する事業（Summer Institute : SI）と韓国の理工系大学院生（同上）を冬休みに7週間日本へ招聘し、公的研究機関で研究研修する事業（Winter Institute : WI）からなる。</p> <p style="text-align: center;">(1) 人数 : SI 5名、WI 38名 (2) 期間 : 7週間</p>			
実 施 状 況	<p>1. 概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【SI】 2010年8月2日～2010年9月17日(47日間)横浜国立大学他5名(男子) ・【WI】 2011年1月5日～2011年2月19日(46日間)亜州大学他20大学から38名 (男子24、女子14) <p>2. 受入研究機関 :</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【SI】 韓国標準科学研究院、延世大学校、ソウル大学校、KAIST、釜山大学校、 (計) 5機関 5名 ・【WI】 <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国立環境研究所 4名 ・ 物質・材料研究機構 6名 ・ 産業技術総合研究所 12名 ・ 森林総合研究所 1名 ・ 農業・食品産業技術総合研究機構 1名 ・ 国立科学博物館 1名 </td> <td style="width: 50%; border-left: 1px dotted black; padding-left: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 建築研究所 2名 ・ 理化学研究所 9名 ・ 海洋研究開発機構 1名 ・ かずさDNA研究所 1名 <li style="text-align: right;">(計) 10機関 38名 </td> </tr> </table> <p>3. 特記 :</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 東北関東大震災をうけて韓国では直ちに救援や募金の支援活動がスタートしたが、協力機関韓国研究財団(NRF)職員と本年度 WI 参加者38名が支援金を拠出されたことが地元新聞紙にとりあげられた。このWIの長年にわたる活動が韓国側で認知されて来ていることと嬉しく喜ばしいニュースである。 <p>4. 成果等 :</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ WIは今年度で18回を数え656名が参加しているが、WI参加OBや指導教官の推奨で応募してくることも多くみられる。また、一度参加したのちに再び他の留学制度を利用して日本に留学するケースやポストドクでホスト研究所へ来ることも珍しくない。いずれも、この事業の狙いである、研究交流のきっかけづくりと維持拡大が着実に進んでいると考えられる。 ・ SIは今年度で3回目であるが認知度がなかなか上らず応募者が増えず今回も8名に止まった。昨今日本の学生が内籠りで海外留学をしたがらないと言われていたこともあり、次年度の募集効果を上げるために前年参加大学を回訪したが、指導教官から、SIに参加させたが、行く前は逡巡する気配があったものの帰ってから非常に積極的になり、参加させてよかった、との言があった。是非続いて学生を参加させたいとの言葉があり、このプログラムの教育効果を改めて認識することができた。 <p style="text-align: center;">*委託 : (社) 科学技術国際交流センター (JISTEC)、協力 : 韓国研究財団 (NRF)</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・ 国立環境研究所 4名 ・ 物質・材料研究機構 6名 ・ 産業技術総合研究所 12名 ・ 森林総合研究所 1名 ・ 農業・食品産業技術総合研究機構 1名 ・ 国立科学博物館 1名 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 建築研究所 2名 ・ 理化学研究所 9名 ・ 海洋研究開発機構 1名 ・ かずさDNA研究所 1名 <li style="text-align: right;">(計) 10機関 38名
<ul style="list-style-type: none"> ・ 国立環境研究所 4名 ・ 物質・材料研究機構 6名 ・ 産業技術総合研究所 12名 ・ 森林総合研究所 1名 ・ 農業・食品産業技術総合研究機構 1名 ・ 国立科学博物館 1名 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 建築研究所 2名 ・ 理化学研究所 9名 ・ 海洋研究開発機構 1名 ・ かずさDNA研究所 1名 <li style="text-align: right;">(計) 10機関 38名 			

5. 調査・広報事業

事業名	(1) 日韓経済連携関連事業
事業内容	<p>2007 年度から日韓両国の経済連携の方向性や方法を探るために、産・学・官の有識者によるシンポジウムを毎年 1 回開催しており、2010 年度は 4 回目である。</p> <p>過去 3 回のシンポジウムの共通テーマは以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第 1 回 2007.10.9 「日韓の更なる緊密化に向けて」 ・ 第 2 回 2008.10.22 「未来志向の日韓経済交流に向けて」 ・ 第 3 回 2009.10.19 「日韓産業・地域間経済交流の更なる活性化に向けて」
実施状況	<p>1. 「第 4 回日韓経済シンポジウム」の開催 ((社)日韓経済協会と共催)</p> <p>(1) 開催日：2010 年 9 月 15 日 (水) 13:30～17:30</p> <p>(2) 場 所：経団連会館 (東京都千代田区大手町 1-3-2) 2 階ホール</p> <p>(3) 後 援：(社)日本経済団体連合会、(財)経済広報センター</p> <p>(4) 参加者：約 200 名</p> <p>(5) テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 共通テーマ：「日韓間の経済連携及び地球環境協力の更なる進化に向けて」 ・ 総合司会：深川 由起子 早稲田大学政治経済学部教授 <p>①セッションⅠ：「日韓連携の進化としての FTA/EPA、特に日韓 FTA/EPA の早期再開方策と日中韓を軸とした東アジア連携」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本側：「日中韓貿易・投資関係と F T A：日韓 F T A の意義」 (浦田秀次郎 早大大学院アジア太平洋研究科教授) ・ 韓国側：「韓国の F T A 政策：現況と今後の推進展望」 (朴 泰鎬 (박·태호) ソウル大学校 国際大学院長) <p>②パネルディスカッション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 深川教授のリードで、セッションⅠの講演者から補足説明や会場との質疑応答を実施。 <p>③セッションⅡ：「日韓地球環境取組と韓国企業の事業戦略」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本側：「環境エネルギー分野における J X 日鉱日石エネルギーの日韓協力」 (池田 道雄 J X 日鉱日石エネルギー(株)取締役 常務執行役員) ・ 韓国側：「韓国企業発展の原動力と戦略的特徴－L G グループを中心に－」 (李 地平 (이·지평) L G 経済研究院 首席研究委員) <p>2. 会場でのアンケート調査結果 (回答者数 78 名)</p> <p>①各セッションに対する評価 (「参考になった」、「普通」、「参考にならなかった」の 3 段階)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ セッションⅠは 79%、パネルディスカッションは 91%、セッションⅡは 72%が参考になったと評価。参考にならなかったとの回答者は 1～4%、未記入者は 5～11%。 <p>②次回シンポジウムのテーマについて(順不同)</p> <p>イ)FTA/EPA 関連</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ FTA のネットワークである部品・素材分野の問題解決方法 ・ 日中韓の識者による FTA の議論 ・ FTA 交渉における農業問題 ・ 日中韓、台湾、ASEAN の経済連携・交流のあり方 <p>ロ)北東アジア経済圏に与える日韓経済協力のインパクト</p> <p>ハ)韓国企業の強さ</p> <p>ニ)韓国企業の日本進出促進</p> <p>ホ)国際分業の可能性</p> <p>ヘ)日韓産業協力の成功事例 他多数</p>

5. 調査・広報事業

事業名	(2) 各種調査・研究事業																																						
事業内容	<p>本事業は、調査・広報事業の一部として、既に韓国で生産・営業活動を営んでいる日系進出企業の現地経営の高度化を支援すべく実施するものである。1999年以降、韓国経営研究会として2種の研究会を80回程度開催した。(ソウルジャパンプラブ(SJC)経営研究会支援)</p>																																						
実施状況	<p>在韓日系企業における経営技術向上のための、経営ノウハウの交流促進、韓国産業・経済等に関する学習の場を提供する。2010年度、韓国経営研究会は次の2種類を実施した。</p> <p>1) 企業経営研究会</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 35%;">テーマ</th> <th style="width: 30%;">場所</th> <th style="width: 20%;">日程</th> <th style="width: 15%;">参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回(通算30回) 「浦項・蔚山地域の投資環境と景気状況」</td> <td>訪問先： ・浦項 POSCO 社 ・部品素材専用団地 ・POSCO 燃料電池工場、他</td> <td>7月8日(木) ～9日(金)</td> <td>30名</td> </tr> <tr> <td>第2回(通算31回) 「光州広域地域の投資環境と景気状況」</td> <td>訪問先： ・光技術院 ・三星電子、他</td> <td>10月14日(木) ～15日(金)</td> <td>18名</td> </tr> <tr> <td>第3回(通算32回) 「韓国で積極的に投資を進める」</td> <td>訪問先： ・チソンコリア ・韓国 HOYA</td> <td>10月27日(水)</td> <td>21名</td> </tr> </tbody> </table> <p>2) 経営研究セミナー</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 35%;">テーマ</th> <th style="width: 30%;">講師</th> <th style="width: 20%;">日時・場所</th> <th style="width: 15%;">参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回(通算47回) 「韓国経済の光と影～躍進・グローバル企業と忍び寄る構造問題」</td> <td>早稲田大学 政治経済学部 深川由起子 教授</td> <td>4月9日(金) 16:00～17:30 韓国経済新聞社ホール</td> <td>80名</td> </tr> <tr> <td>第2回(通算48回) 「国家競争力強化に向けた施策と課題～グリーンエネルギー分野を中心に」</td> <td>金・張法律事務所 李載薫 常任顧問</td> <td>6月14日(月) 16:00～17:30 韓国経済新聞社ホール</td> <td>41名</td> </tr> <tr> <td>第3回(通算49回) 「韓国企業の最近の動向と発展の原動力～グローバル企業の経営革新事例」</td> <td>LG 経済研究所 李地平 首席研究委員</td> <td>9月30日(木) 16:00～17:30 韓国経済新聞社ホール</td> <td>70名</td> </tr> <tr> <td>第4回(通算50回) 「2011年韓国経済の見通し～来年も韓国企業の強さは続くのか?」</td> <td>ソウル大学 呉鐘南 教授</td> <td>12月16日(木) 16:00～17:30 金・張法律事務所 会議室</td> <td>67名</td> </tr> </tbody> </table> <p>本研究会の意義を確認するとともに、実施内容・実施方法等改善への示唆を得ることができた。</p>			テーマ	場所	日程	参加人数	第1回(通算30回) 「浦項・蔚山地域の投資環境と景気状況」	訪問先： ・浦項 POSCO 社 ・部品素材専用団地 ・POSCO 燃料電池工場、他	7月8日(木) ～9日(金)	30名	第2回(通算31回) 「光州広域地域の投資環境と景気状況」	訪問先： ・光技術院 ・三星電子、他	10月14日(木) ～15日(金)	18名	第3回(通算32回) 「韓国で積極的に投資を進める」	訪問先： ・チソンコリア ・韓国 HOYA	10月27日(水)	21名	テーマ	講師	日時・場所	参加人数	第1回(通算47回) 「韓国経済の光と影～躍進・グローバル企業と忍び寄る構造問題」	早稲田大学 政治経済学部 深川由起子 教授	4月9日(金) 16:00～17:30 韓国経済新聞社ホール	80名	第2回(通算48回) 「国家競争力強化に向けた施策と課題～グリーンエネルギー分野を中心に」	金・張法律事務所 李載薫 常任顧問	6月14日(月) 16:00～17:30 韓国経済新聞社ホール	41名	第3回(通算49回) 「韓国企業の最近の動向と発展の原動力～グローバル企業の経営革新事例」	LG 経済研究所 李地平 首席研究委員	9月30日(木) 16:00～17:30 韓国経済新聞社ホール	70名	第4回(通算50回) 「2011年韓国経済の見通し～来年も韓国企業の強さは続くのか?」	ソウル大学 呉鐘南 教授	12月16日(木) 16:00～17:30 金・張法律事務所 会議室	67名
テーマ	場所	日程	参加人数																																				
第1回(通算30回) 「浦項・蔚山地域の投資環境と景気状況」	訪問先： ・浦項 POSCO 社 ・部品素材専用団地 ・POSCO 燃料電池工場、他	7月8日(木) ～9日(金)	30名																																				
第2回(通算31回) 「光州広域地域の投資環境と景気状況」	訪問先： ・光技術院 ・三星電子、他	10月14日(木) ～15日(金)	18名																																				
第3回(通算32回) 「韓国で積極的に投資を進める」	訪問先： ・チソンコリア ・韓国 HOYA	10月27日(水)	21名																																				
テーマ	講師	日時・場所	参加人数																																				
第1回(通算47回) 「韓国経済の光と影～躍進・グローバル企業と忍び寄る構造問題」	早稲田大学 政治経済学部 深川由起子 教授	4月9日(金) 16:00～17:30 韓国経済新聞社ホール	80名																																				
第2回(通算48回) 「国家競争力強化に向けた施策と課題～グリーンエネルギー分野を中心に」	金・張法律事務所 李載薫 常任顧問	6月14日(月) 16:00～17:30 韓国経済新聞社ホール	41名																																				
第3回(通算49回) 「韓国企業の最近の動向と発展の原動力～グローバル企業の経営革新事例」	LG 経済研究所 李地平 首席研究委員	9月30日(木) 16:00～17:30 韓国経済新聞社ホール	70名																																				
第4回(通算50回) 「2011年韓国経済の見通し～来年も韓国企業の強さは続くのか?」	ソウル大学 呉鐘南 教授	12月16日(木) 16:00～17:30 金・張法律事務所 会議室	67名																																				

5. 調査・広報事業

事業名	(3) 日韓グリーン産業調査事業
事業内容	<p>本事業は、低炭素化社会を目指す日韓両国が推進するグリーン成長産業（太陽電池、蓄電池、LED、有機 EL 等）を中心とした産業の調査を実施するものである。</p> <p>日韓のグリーン成長産業における主要部品の開発・生産・調達の現状、仕組みについて代表的な部品・素材メーカーの事例の調査研究を行い、双方の違いを比較することによってグリーン成長産業の問題点・課題を抽出し、解決すべき点を提言としてまとめた。</p>
実施状況	<p>調査内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 調査対象 <p style="margin-left: 20px;">日本メーカー：シャープ、パナソニック、三洋電機、ソニー、東北パイオニア、日亜化学工業、トクヤマ、京セラ、GS ユアサ、三菱化学、住友化学、TDK、他</p> <p style="margin-left: 20px;">韓国メーカー：LG Innotek、Shinsung Hoidings、現代重工業、Samsung Mobile Display、LG Display、Samsung SDI、Hanhwa、LG Siltron、Itswell、他</p> 2. 日韓グリーン産業調査の総括 3. 日韓グリーン産業の動向 4. 日韓グリーン産業・デバイス・素材メーカーの現状と計画 5. 日韓グリーン産業における貿易インバランスに関する問題 6. 財団事業の提言 <p>韓国企業への提言として モジュール・デバイス、セット機器の生産量は拡大しているが、太陽電池、蓄電池、LED、有機 EL 各分野での材料の自国調達率が低い。今後は各種材料の自国内調達を拡大させたい。</p> <p>また 日韓共同の規格を策定して、世界標準に向けた普及活動を行い、日本企業の知的財産権を保った上で、日韓間の技術交流を促進すべきである。</p> <p style="text-align: right;">* 調査委託：(株)富士キメラ総研</p>

5. 調査・広報事業

事業名	(4) 財団ホームページ整備
事業内容	財団パンフレットの更新、既存のホームページの充実及び更新等を通じて、財団事業に関する情報を積極的にPRしていく。
実施状況	<p>日韓財団の「ホームページ (HP)」のより一層の充実を図り、随時新しい活動内容を情報開示すると共に、基幹データを整理した。</p> <p>財団の実績及び成果事例、各種事業報告書、決算書等もアップデートし、掲載した。</p> <p>また、各事業の終了時には、写真を取り込み結果報告などタイムリーに掲載する等、財団事業活動のPRに貢献した。</p> <p>入札に関しては財団事業の業務委託の案内 (説明会含む)、及び選定結果を掲載し、周知した。</p>

V. 日韓両財団「連絡協議会」及び「連絡協議会幹事会」の開催

1992年6月に日韓両国政府間で合意された「日韓貿易不均衡是正等のための具体的実践計画」の中で両国の「産業技術協力財団」が協力して業務を実施していくよう連絡協議会を設置することが定められており、その下部機関として幹事会を設け、必要により随時協議することとなっている。

1. 第17回連絡協議会は下記のとおり開催された。

日 時：2010年4月16日（金）

場 所：ホテルグランヴィア岡山

出席者：

（日本側）

委員長	飯島 英胤	理事長
委員	鮫島 章男	副理事長
〃	上田 勝弘	副理事長
〃	瀬戸 雄三	理事
〃	相原元八郎	理事
〃	長井 正成	SJC 理事長
〃	古川 洋三	専務理事

（韓国側）

委員長	趙 錫 來	理事長
委員	具 本 俊	韓日経済協会 副会長
〃	羅 應 燦	韓日経済協会 副会長
〃	徐 敏 錫	韓日経済協会 副会長
〃	李 潤 雨	韓日経済協会 副会長
〃	崔 用 權	韓日経済協会 副会長
〃	智 光 薰	専務理事

朝食・意見交換

（1）両財団の事業実績について

（2）両財団の2010年度事業計画と連携強化について

2. 第18回連絡協議会幹事会は下記の通り開催された。

日 時：2010年8月25日（水）全体会議

26日（木）事業単位分科会

場 所：日韓財団会議室

出席者：

（日本側）

主 査	是永 和夫	日韓産業技術協力財団	専務理事・事務局長
委 員	山崎 弘	〃	常務理事・管理部長
〃	北林 均	〃	事業第一部長
〃	三池 壽博	〃	事業第二部長
〃	杉山 茂夫	〃	総務部長

Observer	児玉 良則	外務省 アジア大洋州局	日韓経済室長
〃	玉城 勝也	〃	日韓経済室 外交実務研究員
〃	伊集院健夫	経済産業省 通商政策局	通商交渉調整官
〃	渡邊 亨	〃	韓国室 係長
〃	山鹿 允寛	〃	韓国室

(韓国側)

主 査	智 光 薫	韓日産業・技術協力財団	専務理事
委 員	宋 成 基	韓日財団 日本知識情報センター	センター長
〃	張 震 旭	〃 日本ビジネス協力センター	センター長
〃	金 彰 彬	〃 経営支援室	室長
〃	劉 崇 勳	〃 日本事務所	所長
Observer	呉 鍾 熙	知識經濟部 亜州協力課	事務官
〃	金 星 秀	外交通商部 東アジア通商課	課長
〃	柳 恩 瑩	〃	事務官
〃	裴 晟 竣	駐日大韓民国大使館	商務官補
〃	廉 民 善	大韓商工会議所 流通物流研究室	前任研究員

議 題：

- ・全体会議 (8月25日)
 - (1) 2010年度共同事業推進状況説明
 - (2) 2011年度共同事業を含む事業計画方針説明
 - (3) 上記事業計画説明及び協議
- ・事業単位分科会 (8月26日)

3. 第18回連絡協議会幹事会実務者会議は下記の通り開催された。

日 時：2010年11月11日 (木) 全体会議・事業単位分科会(1)
12日 (金) 事業単位分科会(2)・全体会議

場 所：韓日財団会議室

出席者：

(日本側)

主 査	是永 和夫	日韓産業技術協力財団	専務理事・事務局長
委 員	山崎 弘	〃	常務理事・管理部長
〃	北林 均	〃	事業第一部長
〃	三池 壽博	〃	事業第二部長
〃	初瀬川 茂	日韓財団 日韓中小企業情報交流センター	所長
〃	杉山 茂夫	日韓産業技術協力財団	総務部長

(韓国側)

代表委員	智 光 薫	韓日産業・技術協力財団	専務理事
委 員	宋 成 基	韓日財団 日本知識情報センター	センター長
〃	金 彰 彬	〃 経営支援室	室長
〃	張 震 旭	〃 日本ビジネス協力センター	センター長
〃	李 炳 國	〃	次長
〃	金 度 勳	〃	次長
〃	田 在 鎔	〃	前任研究員
〃	李 由 美	〃	代理
〃	朴 宥 欣	〃	

議 題：

- ・全体会議 (11月11日)
 - (1) 2010年度共同事業推進状況説明
 - (2) 2011年度共同事業を含む事業計画方針説明
 - (3) 上記事業計画及び説明に伴う協議
- ・事業単位分科会(1) (11月11日)
- ・事業単位分科会(2) (11月12日)

以 上

VI. 事務局人事

平成22年 6月16日 古川 洋三 専務理事を退任
是永 和夫 新 専務理事・事務局長に就任
((社)日韓経済協会 専務理事 兼任)

30日 讃井 善郎 日韓中小企業情報交流センター所長が退職

10月 1日 初瀬川 茂 日韓中小企業情報交流センター所長に就任

VII. 財 団 主 要 活 動

月 日	事 項
平成22年	
4月 6日(火)	「部品素材工団投資訪韓ミッション」の入札に関する事業説明会開催。(於：日韓財団会議室)
13日(火)	杉原職員が KOTRA 東京 IT 支援センター主催の第18回 Korea IT Café に参加。(テーマ：Trend of Korea's Semantic Web Search)
16日(金)	第17回日韓・韓日両財団連絡協議会開催。(於：ホテルグランヴィア岡山)
20日(火)	杉原職員が韓国 IT 企業 S 社と日本企業 Y 社のマッチング実施。
21日(水)	公認会計士の板垣氏による監査。(22日まで)
5月 6日(木)	三池部長が、九州・韓国南部バイオビジネス連携推進に係る打合せのため(株)久留米リサーチパーク(所在地：福岡県久留米市)を訪問。
12日(火)	韓国企業 E 社が機械輸入に伴う製品の説明及び技術トレーニングを受けるため、日本企業 N 社(所在地：京都市)を訪問。(杉原職員同行)
19日(水)	三池部長が、韓国釜山バイオ企業団と合流し、(株)久留米リサーチパーク他バイオ関連企業を訪問。(於：福岡市、久留米市、21日まで)
25日(火)	北林部長が、「部品素材工団投資訪韓ミッション」今年度訪問予定工団である蔚山、浦項、釜山各市の窓口担当部署を訪ね、事業説明と協力を要請。(韓日財団担当者・日刊工業新聞社担当者同行、27日まで)
26日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・センター広報及び相談受付のため「中小企業総合展2010 in Kansai」にてブース出展。(於：インテックス大阪、讃井所長・杉原職員実施、28日まで) ・三池部長が、韓国大邱広域市と石川県内の IT 企業交流・商談会に参加。(於：金沢市、29日まで)
28日(金)	「理工系大学院生研究交流事業 SUMMER INSTITUTE」参加者への事前説明会開催。(於：当財団会議室、古川専務理事・山崎常務理事・北林部長出席)
6月 8日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・「第14回日韓中小企業商談会」事前説明会・セミナー開催。(於：日韓財団会議室、讃井所長実施) ・「先進企業技術交流事業」応募技術者面接選考及び審議会実施。(於：韓日財団会議室、三池部長実施、10日まで)
16日(水)	平成22年度第1回及び第2回理事会、第1回評議員会開催。 (於：日韓財団会議室)
	第1回理事会 議決事項 第1号議案 平成21年度事業報告(案)承認の件 第2号議案 平成21年度収支決算報告(案)承認の件 第3号議案 任期満了等に伴う評議員選出承認の件 第1回評議員会 議決事項 第1号議案 任期満了等に伴う理事及び監事選任承認の件

月 日	事 項
	<p>第2号議案 新公益法人制度移行準備検討委員会設置の件 報告事項 ① 平成21年度事業報告 ② 平成21年度収支決算報告</p> <p>第2回理事会 議決事項 第1号議案 理事長、副理事長、専務理事及び常務理事互選(案)の件 第2号議案 新公益法人制度移行準備検討委員会設置の件 佐々木幹夫理事長(新任)(三菱商事(株)取締役会長(当時))、是永和夫専務理事(新任)(三菱商事(株))、山崎弘常務理事(再任)が選出された。</p> <p>17日(木) 「第2回日韓産業技術フォーラム」開催。工場見学(株三和電機製作所/大田区中馬込)及び経営セミナー・パネル討議(於:大田区産業プラザ)実施。(是永専務理事・山崎常務理事・讃井所長・杉原職員参加)</p> <p>18日(金) 「第14回日韓中小企業商談会」開催。(於:品川プリンスホテル、是永専務理事・山崎常務理事・杉原職員出席)</p> <p>21日(月) 杉原職員がビジネスマッチングのため韓国・ソウルに出張。(25日まで)</p> <p>23日(水) 三池部長が「第11回北陸(日本)・韓国経済交流会議」関係者会議に出席のため金沢に出張。</p> <p>24日(木) ・「日韓グリーン産業調査事業」の入札に関する事業説明会開催。(於:日韓財団会議室) ・三池部長が「先進企業技術交流事業」実習生受入依頼のため大垣精工(株)(岐阜県大垣市)を訪問。</p> <p>7月 1日(木) 三池部長が「先進企業技術交流事業」実習生受入企業事前訪問実施。 (株明和工作所(広島県福山市)、株西島製作所(大阪府高槻市)、株山武(品川区東品川)、ナパック(株)(長野県駒ヶ根市)、株名古屋精密金型(愛知県知多郡)及び日本車輛製造(株)(愛知県豊川市)、9日まで)</p> <p>2日(金) 北林部長が9月29日にソウルで開催される「日韓産業技術フェア」のセミナー講師依頼のため、株かいわ(山梨県上野原市)を訪問。</p> <p>12日(月) 「先進企業技術交流事業 日本語教育」開講式開催。(於:現代人材開発院(韓国・京畿道龍仁市)、山崎常務理事・三池部長出席)</p> <p>13日(火) 北林部長が9月29日にソウルで開催される「日韓産業技術フェア」のセミナー講師依頼のため、株パイオニア風力機(愛知県名古屋市)を訪問。</p> <p>27日(火) 山崎常務理事が韓日財団単独事業「日本技術者招請マッチング相談会」に出席。 (於:品川イーストワンタワー)</p> <p>8月 2日(月) 「理工系大学院生研究交流事業 Summer Institute」開講式開催。(於:ソウルパレスホテル、日本側大学院生5名・是永専務理事・山崎常務理事・北林</p>

月 日	事 項
3日(火)	部長・韓日財団・JISTEC 出席) 三池部長が富山市にて開催された「第11回北陸・韓国経済交流会議」に出席。(6日まで)
13日(金)	「先進企業技術交流事業 日本語教育」修了式開催。(於：現代人材開発院(韓国・京畿道龍仁市)、山崎常務理事・三池部長出席)
24日(火)	「先進企業技術交流事業」実習生15名韓国より来日。 歓迎会開催。(於：喜山倶楽部(日本教育会館内)、経済産業省・外務省・駐日大韓民国大使館・韓日財団・是永専務理事・山崎常務理事・三池部長・梶山職員出席)
25日(水)	・第18回日韓・韓日両財団連絡協議会幹事会開催。 (於：当財団会議室、日本側は外務省・経済産業省・日韓財団、韓国側は知識経済部・外交通商部・駐日大韓民国大使館・大韓商工会議所・韓日財団出席) ・「先進企業技術交流事業 企業実習」オリエンテーション実施。(於：リフレフォーラム(江東区大島)、26日まで)
26日(木)	第18回日韓・韓日両財団連絡協議会幹事会分科会実施。(於：当財団会議室)
27日(金)	実習生15名、「先進企業技術交流事業」課外学習実施。江戸東京博物館、浅草等見学。(三池部長・梶山職員引率)夜、日韓交流会出席。(於：アジア文化会館、三池部長・梶山職員出席)
29日(日)	「先進企業技術交流事業」実習生15名、各受入企業及び宿泊施設に移動。30日より各受入企業にて企業実習開始。(10月27日まで企業実習)
31日(火)	三池部長が韓国・釜山で開催された九韓環境ビジネス連携事業のビジネスミッションに参加。(9月2日まで)
9月 1日(水)	韓国企業 E 社が機械輸入に伴う製品の説明及び技術トレーニングを受けるため、日本企業 N 社(所在地：京都市)を訪問。(杉原職員同行、2日まで)
7日(火)	三池部長が韓国・大邱にて開催された「ビジネス商談会 in 大邱」に参加。(9日まで)
8日(水)	北林部長が10月27日から29日にかけて行われる「部品素材工団投資訪韓ミッション」の事前調査のため、浦項市市庁、蔚山市市庁及び釜山市市庁を訪問。(10日まで)
9日(木)	・三池部長が韓国・釜山にて開催された「釜山 IT・EXPO」に参加。(11日まで) ・山崎常務理事が「第2回日韓中小企業 CEO フォーラム」に出席のため、韓国・ソウルに出張。(10日まで)
12日(日)	「環境・省エネルギー経営者交流事業(韓国側呼称：環境・省エネ技術者専門セミナー)」研修生15名韓国より来日。

月 日	事 項
14日(火)	<p>開講式及び歓迎会開催。(於：リフレフォーラム(江東区大島)、山崎常務理事・北林部長出席)</p> <p>三池部長・韓日財団担当者が中間企業訪問実施。</p> <p>(大塚製薬(株)佐賀工場(佐賀県神埼郡)、(株)明和工作所(広島県福山市)、日本車輛製造(株)(愛知県豊川市)、(株)名古屋精密金型(愛知県知多郡)、大垣精工(株)(岐阜県大垣市)、17日まで) 17日、名古屋にて中間報告会開催。</p>
15日(水)	<p>「第4回日韓経済シンポジウム」開催。(社)日韓経済協会との共催、於：経団連会館) 200名超参加。</p>
16日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・「環境・省エネルギー経営者交流事業(韓国側呼称：環境・省エネ技術者専門セミナー)」修了式開催。(於：リフレフォーラム(江東区大島)、是永専務理事・山崎常務理事出席) 17日、研修生韓国に帰国。 ・「理工系大学院生研究交流事業 Summer Institute」修了式開催。(於：ソウルパレスホテル、日本側大学院生5名・韓日財団・JISTEC 出席)
29日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・「第15回日韓中小企業商談会」(2010日韓部品素材調達展示商談会~日韓産業技術フェア) 開催。(於：ロッテホテルソウル、佐々木理事長・是永専務理事・山崎常務理事・杉原職員参加) ・三池部長が九州・韓国南部 IT ビジネス連携に係る韓国釜山企業ミッション団対応のため北九州市に出張。(10月1日まで)
10月 5日(火)	<p>「部品素材工団投資訪韓ミッション(韓国部品素材団地視察ツアー)」事前説明会開催。(於：当財団会議室、山崎常務理事・北林部長出席)</p>
7日(木)	<p>「理工系大学院生研究交流事業 Winter Institute」現地説明会開催。(於：韓国研究財団(ソウル)、北林部長出席)</p>
11日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・「環境・省エネルギー経営者交流(経営者セミナー)事業」開講式及び歓迎会開催、韓国企業経営者・幹部15名参加。(於：ホテルクラウンパレス小倉、北林部長出席) 12日から14日まで北林部長随行。 ・山崎常務理事が韓国グリーン産業関係の企業調査のため韓国・ソウル、京畿道、大邱に出張。(富士カメラ総研同行、14日まで)
13日(水)	<p>三池部長が「第17回九州・韓国経済交流会議」に出席。(於：北九州国際会議場)</p>
14日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・「モノづくりフェア2010」で広報及び日韓ビジネス相談受付。(於：マリンメッセ福岡、初瀬川所長・杉原職員実施、16日まで) ・三池部長が蔚山環境ビジネスミッション団対応のため、北九州市・熊本市・阿蘇市に出張。(16日まで)
15日(金)	<p>「環境・省エネルギー経営者交流(経営者セミナー)事業」閉講式及び送別会開催。(於：ホテルクラウンパレス小倉、是永専務理事・北林部長出席)</p>

月 日	事 項
20日(水)	公認会計士の板垣氏による中間監査。(21日まで)
22日(金)	「理工系大学院生研究交流事業 Winter Institute」ホスト研究室説明会開催。 (於：二の宮ハウス(つくば市)、北林部長出席)
27日(水)	・「部品素材工団投資訪韓ミッション(韓国部品素材団地視察ツアー)」開催。(視察地：韓国南部部品素材専用団地3ヵ所(浦項、蔚山、釜山)、是永専務理事・山崎常務理事・北林部長参加、29日まで) ・「先進企業技術交流事業 企業実習」終了。28日、実習生集合後、報告会準備。 (於：リフレフォーラム(江東区大島)、三池部長・梶山職員参加)
29日(金)	報告会開催。(於：喜山倶楽部(日本教育会館内)、実習生15名・実習生受入企業担当者・韓日財団・山崎常務理事・三池部長・梶山職員出席) 送別会開催。(於：喜山倶楽部(日本教育会館内)、実習生15名・駐日本国大韓民国大使館・外務省・実習生受入企業担当者・韓日財団他・山崎常務理事・三池部長・梶山職員出席) 30日、実習生韓国帰国。
11月10日(水)	「中小企業総合展2010 in Tokyo」で広報及び日韓ビジネス相談受付。 (於：東京ビッグサイト、初瀬川所長・杉原職員実施、12日まで)
11日(木)	第18回日韓・韓日両財団連絡協議会幹事会実務者会議開催。(於：韓日財団会議室、日韓財団6名・韓日財団10名出席、12日まで)
19日(金)	北林部長が「理工系大学院生研究交流事業 Winter Institute」ホスト研究室の(財)かずさディー・エヌ・エー研究所(千葉県木更津市)を事前訪問。
22日(月)	是永専務理事・山崎常務理事・北林部長が10月27日～29日にかけて行われた「韓国部品素材団地視察ツアー」参加企業の投資に関するフォローアップ実施。(H社(大田区)、I技術事務所(横浜市戸塚区)、I社(福島県郡山市)、G協同組合(静岡県富士市)、30日まで)
12月 1日(水)	三池部長が今年度及び来年度事業打合せのため北陸環日本海経済交流促進協議会(北陸AJEC)を訪問。
2日(木)	・三池部長が今年度及び来年度事業打合せのため(財)石川県産業創出支援機構(ISICO)を訪問。 その後、北陸・韓国経済交流会議関係者会議に出席。(於：リファーレ金沢) ・10月27日～29日にかけて行われた「韓国部品素材団地視察ツアー」参加企業の投資に関するフォローアップを実施。(計21社、是永専務理事・山崎常務理事・北林部長、17日まで)
16日(木)	三池部長が先進企業技術交流事業に関する調査依頼のため淑明女子大学(韓国・ソウル)を訪問。
17日(金)	・是永専務理事・山崎常務理事が「訪韓ミッション」参加企業のフォローアップ状況及び今後の展開について韓日財団と打合せ。(於：韓日財団)

月 日	事 項
	<ul style="list-style-type: none"> 三池部長が今年度及び来年度の「先進企業技術交流事業」に関する打合せのため韓日財団を訪問。
20日(月)	北林部長が来年度の「理工系大学院生研究交流事業 SUMMER INSTITUTE」大学院募集協力依頼のため日本大学(東京都千代田区神田駿河台)を訪問。
22日(水)	経産省にて、日韓グリーン産業調査事業の報告書に基づき、内容について報告。 (山崎常務理事、(株)富士キメラ総研3名)
24日(金)	<ul style="list-style-type: none"> 外務省にて、理工系大学院生研究交流事業に関する報告及び打合せ。(是永専務理事、山崎常務理事、併せて「訪韓ミッション」参加企業のフォローアップ状況説明) 北林部長が来年度の「理工系大学院生研究交流事業 SUMMER INSTITUTE」大学院募集協力依頼のため東京工業大学(目黒区大岡山)を訪問。
平成23年	
1月 5日(水)	「理工系大学院生研究交流事業 Winter Institute」研究生38名来日。6日、開講式開催。(於：つくば二の宮ハウス、是永専務理事・山崎常務理事・北林部長出席)
14日(金)	昨年10月に行った「訪韓ミッション」参加企業の投資に関するフォローアップを実施。(計5社、山崎常務理事、北林部長、28日まで)
18日(火)	北林部長が来年度の「理工系大学院生研究交流事業 Summer Institute」大学院募集協力依頼のため日本大学理工学部、長崎大学水産学部、九州大学工学部、東京大学柏キャンパスを訪問。(27日まで)
20日(木)	<ul style="list-style-type: none"> 新春賀詞交歓会開催。(於：三菱クラブ、日韓経済協会と共催) 北林部長が来年度事業打合せのため(財)北九州国際技術協力協会(KITA)を訪問。
22日(土)	「理工系大学院生研究交流事業 Winter Institute」日本文化研修。(都内・日帰り、北林部長同行)
25日(火)	韓国産業人力公団本部(ソウル)にて日韓経済協会主催人材交流専門委員会開催。(山崎常務理事出席)
26日(水)	北林部長が Winter Institute ホスト研究室の(独)海洋研究開発機構(横浜市)を訪問。
27日(木)	三池部長が先進企業技術交流事業に関する調査業務打合せのため淑明女子大学 李教授と打合せ。(於：韓日財団)
28日(金)	「平成22年度先進企業技術交流事業評価懇談会」実施。(於：韓日財団会議室、実習生・三池部長・韓日財団出席)
2月 2日(水)	初瀬川所長が「テクニカルショウヨコハマ2011」で広報及び相談受付実施。 (於：パシフィコ横浜展示ホール、4日まで)

月 日	事 項
3日(木)	是永専務理事・山崎常務理事が昨年10月に行った「訪韓ミッション」参加企業の投資に関するフォローアップ報告のため大垣精工(株)上田社長(岐阜県大垣市)を訪問。
4日(金)	北林部長が Winter Institute ホスト研究室の(独)産業技術総合研究所、(独)農業・食品産業技術総合研究機構作物研究所、(独)物質・材料研究機構、(独)国立環境研究所、(独)理化学研究所(以上茨城県つくば市)、(独)産業技術総合研究所(江東区青海)を訪問。(10日まで)
9日(水)	北林部長が来年度の「理工系大学院生研究交流事業 Summer Institute」大学院生募集協力依頼のため東京理科大学野田キャンパス(千葉県野田市)を訪問。
18日(金)	「理工系大学院生研究交流事業 Winter Institute」報告会及び修了式開催(韓国理工系大学院生38名)。(於: ホテルグランド東雲(茨城県つくば市)、是永専務理事・山崎常務理事・北林部長出席)20日、研究生韓国帰国。
21日(月)	北林部長が「訪韓ミッション」参加企業の投資に関するフォローアップのため(株)スギヤマメカレトロ(岐阜県本巣市)を訪問。
28日(月)	「第16回日韓中小企業セミナー・商談会」、「第17回日韓中小企業セミナー・商談会」、「日韓中小企業産業技術フォーラム企業交流事業及び環境・省エネルギー関連セミナー」の入札に関する第1回事業説明会開催。(於: 日韓財団会議室、7社参加)
3月 1日(火)	三池部長が来年度の事業打合せのため、九州経済産業局、(社)九州経済連合会、北九州市及び関連機関を訪問。(2日まで)
7日(月)	山崎常務理事・初瀬川所長・杉原職員が打合せのため、韓日財団及び関連機関を訪問。(8日まで)
9日(水)	初瀬川所長・杉原職員が打合せのため KOTRA Invest Korea Plaza、Seoul Global Business Support Center を訪問。
25日(金)	<p>平成22年度第2回評議員会及び第3回理事会開催。</p> <p>(於: 日韓財団会議室)</p> <p>第2回評議員会</p> <p>審議事項 ① 平成23年度事業計画(案)の件 ② 平成23年度収支予算(案)の件</p> <p>報告事項 ① 新公益法人制度移行に関する報告</p> <p>第3回理事会</p> <p>議決事項 第1号議案 平成23年度事業計画(案)承認の件 第2号議案 平成23年度収支予算(案)承認の件 第3号議案 評議員選出承認の件</p> <p>報告事項 ① 新公益法人制度移行に関する報告</p>

月 日	事 項
	以 上